

事務事業名	20674 彩の国補助金とりまとめ事業													
担当組織	総務部				経営企画課					担当	企画担当			
組織コード	R2	07	04	00	会計・款・項・目・大事業・中事業	R2	01	XX	XX	XX	XX	00	記入日	令和 2年 6月24日
	R1	07	04	00		R1	01	XX	XX	XX	XX	00		

1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ											実施計画候補		
基本目標	08	着実な総合振興計画の実行に向けて									○ 対象		
分野	03	効率的な行政運営									● 対象外		
施策	86	財源の確保											
事業期間	平成8年度～令和2年度												
根拠法令 通達等	埼玉県ふるさと創造資金大綱、市町村による提案・実施事業補助金交付要綱、市町村と地域団体との協働事業補助金交付要綱、広域連携支援事業補助金交付要綱等							関連計画 施政方針					
事業区分	<input type="radio"/> 法定受託事務 <input type="radio"/> 自治事務のうち義務的なもの <input checked="" type="radio"/> 自治事務のうち任意のもの												
対象	庁内各課												
事業目的	埼玉県からの補助金を活用することで、健全な財政運営の一助とするとともに、各課の積極的な事業展開に貢献する。												
事業内容	①埼玉県が実施する「埼玉県ふるさと創造資金」の庁内窓口として、他のメニューでは対応できない事業について、全庁の中から候補を選定調整の上、補助金申請全般の事務を取り扱う。 ②「埼玉県ふるさと創造資金」全体の申請について統括を行う。												
実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市による単独直営 <input type="checkbox"/> 委託 (<input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 市民・NPO) <input type="checkbox"/> 協働・協力 ()												

2. 実施結果

事業の 予算・実績			令和元年度 執行額(千円)	令和2年度 予算額(千円)	令和3年度 計画額(千円)	令和4年度 計画額(千円)	令和5年度 計画額(千円)	
	事業内容		補助金の取りまとめ及び申請等	補助金の取りまとめ及び申請等	補助金の取りまとめ及び申請等	補助金の取りまとめ及び申請等	補助金の取りまとめ及び申請等	
	事業費		0	0	0	0	0	
	財源内訳	国庫支出金		0	0	0	0	0
		県支出金		0	0	0	0	0
		起債		0	0	0	0	0
		その他		0	0	0	0	0
		一般財源		0	0	0	0	0
	人件費		1,027.2	1,027.2	1,027.2	1,027.2	1,027.2	
	投入 人員	常勤職員		0.15人	0.15人	0.15人	0.15人	0.15人
非常勤職員		0人	0人	0人	0人	0人		
事業費+人件費		1,027	1,027	1,027	1,027	1,027		
目標達成 状況	指標名		単位	説明・算定式		H30目標 H30実績	R1目標 R1実績	R2目標 R2実績
	活動①	埼玉県ふるさと創造資金 要望事業件数	件			1	1	4
						1	1	-
	成果①	埼玉県ふるさと創造資金 採択事業件数	件			1	1	4
						1	1	-
	成果②							
目標達成状況の分析		A：活動・成果ともに達成した。 <判断理由> ふるさと創造資金は埼玉県の補助金で、新しい視点を持った事業を対象としている。令和元年度は庁内の働きかけや担当課との調整を経て1事業を要望し、採択された。						

3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	29年度	30年度	1年度	B：施策の目標達成に貢献している。
	C	B	B	<判断理由> 補助金の獲得により、市の持ち出しが抑制でき、効率的な行政運営につながっている。
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	29年度	30年度	1年度	B：経費は適正な範囲である。
	B	B	B	<判断理由> 要望が採択され、投入人員等の経費以上の効果が出ている。
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	29年度	30年度	1年度	B：事業手法は適正な内容である。
	B	B	B	<判断理由> ふるさと創造資金の活用に向け、積極的な周知を行い、補助金申請全般の事務を行っている。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	29年度	30年度	1年度	B：受益・負担は適正な範囲である。
	B	B	B	<判断理由> 補助金を活用して事業を実施するため、受益・負担は適正な範囲である。

4. 令和元年度中に実施した見直し内容

見直し内容	
見直しの効果	

5. 今後の方針

事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> 1 現状で継続 <input type="radio"/> 2 拡大して継続 <input type="radio"/> 3 縮小して継続 <input type="radio"/> 4 他事業と統合 <input type="radio"/> 5 休止 <input type="radio"/> 6 その他見直し <input type="radio"/> 令和3年度で終了 <input type="radio"/> 令和2年度で終了 <input type="radio"/> 令和元年度で終了
	<判断理由> 引き続き、ふるさと創造資金の活用に向け、積極的な周知を行い、戦略的に当該補助金の獲得を促していく。
今後の取組方針	実施すべき事業に対して戦略的に補助金を活用できるよう働きかけていく。加えて、費用対効果やランニングコスト等も踏まえた事業検討を行っていく。 また、事業内容にもよるが、ふるさと創造資金（3分1補助）に限らず、補助率がより高い「地方創生推進交付金（2分1補助）」など、別の補助金とも比較しながら、活用に取り組んでいく。

事務事業名	21145 税務事務費													
担当組織	財務部					税務課					担当	諸税・法人担当		
組織コード	R2	08	06	00	会計・款・項・目・大事業・中事業	R2	01	02	02	01	02	01	記入日	令和 2年 6月17日
	R1	08	06	00		R1	01	02	02	01				

1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ													実施計画候補	
基本目標	08	着実な総合振興計画の実行に向けて										○ 対象		
分野	03	効率的な行政運営										● 対象外		
施策	86	財源の確保												
事業期間	平成25年度～令和2年度													
根拠法令 通達等											関連計画 施政方針			
事業区分	○ 法定受託事務 ● 自治事務のうち義務的なもの ○ 自治事務のうち任意のもの													
対象														
事業目的	税務証明等窓口事務、租税教育推進事務、その他税務に関する全般的な事務管理を実施する。													
事業内容	賦課徴収を目的とする事業を除く税務事務(税務証明等窓口事務、租税教育推進事務等)について、円滑な運営を実施する。													
実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市による単独直営 <input type="checkbox"/> 委託 (<input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 市民・NPO) <input type="checkbox"/> 協働・協力 ()													

2. 実施結果

事業の 予算・実績	事業内容		令和元年度 執行額(千円)	令和2年度 予算額(千円)	令和3年度 計画額(千円)	令和4年度 計画額(千円)	令和5年度 計画額(千円)	
	事業費		5,448	8,046	8,355	8,046	8,046	
	財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		起債	0	0	0	0	0	
		その他	4,827	5,041	5,041	5,041	5,041	
		一般財源	621	3,005	3,314	3,005	3,005	
	人件費		6,848	6,848	6,848	6,848	6,848	
	投入 人員	常勤職員	1人	1人	1人	1人	1人	
		非常勤職員	2.5人	2.5人	2.5人	2.5人	2.5人	
事業費+人件費		12,296	14,894	15,203	14,894	14,894		
目標達成 状況	指標名		単位	説明・算定式		H30目標 H30実績	R1目標 R1実績	R2目標 R2実績
	活動①	適正な窓口業務の執行	%	適正な証明書発行	100	100	100	
					100	100	-	
	成果①	適正な窓口業務の執行	%	適正な証明書発行	100	100	100	
					100	100	-	
	成果②						-	
						-		
目標達成 状況 の分析	A：活動・成果ともに達成した。 <判断理由> 賦課徴収事務を除く税務事務の円滑な遂行を目指し実施した。税証明発行等窓口事務において申請者から証明書の種類や取得年度、必要性を尋ねられた場合、可能な範囲で目的用途を聴取し、個人情報等を念頭に取得の可否を短時間で見極め、正確に事務を遂行できた。							

3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	29年度	30年度	1年度	B：施策の目標達成に貢献している。
	B	B	B	<判断理由> 税証明書発行事務は、税賦課事務に基づき実施される事務であり、正しく賦課決定された方について証明書を発行している。
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	29年度	30年度	1年度	A：経費の精査が十分になされている。
	A	A	A	<判断理由> 予算編成時に徹底した見直しを実施している。
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	29年度	30年度	1年度	B：事業手法は適正な内容である。
	B	B	B	<判断理由> 法令適合を前提とした事務であり、市民への説明が最も求められるものであることから、個人市民税及び固定資産税の賦課担当と緊密に連絡調整し、事務を執行している。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	29年度	30年度	1年度	B：受益・負担は適正な範囲である。
	B	B	B	<判断理由> 手数料については、市民に了解されている。コンビニ交付件数は、年々増加しているものの、交付件数全体に占める割合は、未だ低い状況である。今後、更なるコンビニ交付の促進を図るには、窓口とコンビニでの交付の手数料設定等について、検討する必要がある。

4. 令和元年度中に実施した見直し内容

見直し内容	特段の見直し事項はない。
見直しの効果	

5. 今後の方針

事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> 1 現状で継続 <input type="radio"/> 2 拡大して継続 <input type="radio"/> 3 縮小して継続 <input type="radio"/> 4 他事業と統合 <input type="radio"/> 5 休止 <input type="radio"/> 6 その他見直し <input type="radio"/> 令和3年度で終了 <input type="radio"/> 令和2年度で終了 <input type="radio"/> 令和元年度で終了
	<判断理由> 窓口において申請者を待たせることなく、出来るだけ短時間で正確に税証明書の発行を実施している。今後も効率的に事務を執行していく。
今後の取組方針	今後も来客者の待ち時間短縮及び正確な窓口事務を常に意識しながら、会計年度任用職員等の適正な人員配置を実施していく。また、事務効率化のため、引き続き市民にコンビニ交付の周知・促進を図っていく。

事務事業名	7015 個人市民税賦課費													
担当組織	財務部					税務課					担当	市民税担当		
組織コード	R2	08	06	00	会計・款・項・目・大事業・中事業	R2	01	02	02	02	01	01	記入日	令和 2年 6月19日
	R1	08	06	00		R1	01	02	02	02	01	01		

1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ											実施計画候補		
基本目標	08	着実な総合振興計画の実行に向けて									○ 対象 ● 対象外		
分野	03	効率的な行政運営											
施策	86	財源の確保											
事業期間	平成25年度～令和2年度												
根拠法令通達等	地方税法、所得税法、租税特別措置法、他					関連計画 施政方針	特になし						
事業区分	○ 法定受託事務 ● 自治事務のうち義務的なもの ○ 自治事務のうち任意のもの												
対象	市民（納税義務者）												
事業目的	地方自治体の歳入の重要な部分を占める市県民税収入の確保に向けた課税資料の収集及び適正な課税を実施する。												
事業内容	市県民税申告対象者（納税義務者）に対し申告受付を実施するなど、正確な課税に向け資料を得る。収集した資料をもとに適正かつ公平な課税を行う。												
実施主体	■ 市による単独直営 □ 委託 (□ 3セク・財団 □ 企業 □ 市民・NPO) □ 協働・協力 ()												

2. 実施結果

事業の 予算・実績	事業内容		令和元年度 執行額（千円）	令和2年度 予算額（千円）	令和3年度 計画額（千円）	令和4年度 計画額（千円）	令和5年度 計画額（千円）	
	事業費		43,054	44,981	43,282	44,981	44,981	
	財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		起債	0	0	0	0	0	
		その他	0	150	150	150	150	
		一般財源	43,054	44,831	43,132	44,831	44,831	
	人件費		82,176	82,176	82,176	82,176	82,176	
	投入 人員	常勤職員	12人	12人	12人	12人	12人	
		非常勤職員	3.5人	3.5人	3.5人	3.5人	3.5人	
事業費+人件費		125,230	127,157	125,458	127,157	127,157		
目標達成 状況	指標名		単位	説明・算定式		H30目標 H30実績	R1目標 R1実績	R2目標 R2実績
	活動①	市県民税申告受付件数	件	窓口、郵送、出張申告受付件数の合計		4,000	4,000	4,000
	活動②	所得税確定申告受付件数	件	窓口、出張申告受付件数の合計		4,051	3,256	—
	成果①	個人市民税予算調定額達成率	%	最終調定額÷最終予算調定額		100	100	100
	成果②					101.8	100.1	—
	目標達成 状況 の分析	B：活動・成果のいずれかを達成した。 <判断理由> 市県民税及び所得税の各申告件数について、市民税申告は申告義務の理解が進みほぼ横ばい、確定申告は、寄附者の増加等により件数が増加傾向にある。しかしながら、新型コロナウイルスの影響により、確定申告期間等が延長されたことで、例年における期限内の申告者が減少したため、申告の受付件数は目標を弱冠達成することができなかった。 予算調定額達成率は100%となり、目標を達成することができた。						

3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	29年度	30年度	1年度	A：施策の目標達成に大いに貢献している。
	A	A	A	<p><判断理由></p> <p>個人市民税（現年課税分）は、市税収入約280億のうち約100億円を占めており、収集した課税資料をもとに適正かつ公平な課税を行うことにより、市の歳入の根幹である市税収入の確保に重大な役割を担っている。</p>
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	29年度	30年度	1年度	A：経費の精査が十分になされている。
	A	A	A	<p><判断理由></p> <p>年々増加する納税義務者及び税制改正の影響により複雑化する各種税制への対応については、システム等を用いて確実に対応することにより、課税業務に係る経費の精査を実施している。</p>
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	29年度	30年度	1年度	A：事業手法は工夫され、非常に効率的・効果的である。
	A	A	A	<p><判断理由></p> <p>極めて秘匿性の高い個人情報扱う業務のため、外部委託の対象は限られるが、特別徴収業務や国税連携業務などの電子化を推奨することや、接続業務を外部委託とするなど業務の効率化を図っている。</p>
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	29年度	30年度	1年度	A：受益・負担は十分な検討、見直しを実施している。
	A	A	A	<p><判断理由></p> <p>地方税法及び市税条例に基づき、市県民税申告対象者（納税義務者）に対し、申告受付及び調査を実施するなど、課税客体的確な把握に努め、収集した課税資料をもとに、適正かつ公平な課税を行っている。</p>

4. 令和元年度中に実施した見直し内容

見直し内容	特別徴収税額通知について、目隠しシールによる秘匿性の確保方式から、圧着方式への見直しを行い、税額通知に支障なく実施することができた。また、電子化された課税資料を可視化し、管理する課税資料イメージ管理システムの更改を実施した。
見直しの効果	特別徴収税額通知を見直したことで、秘匿性の更なる向上及び、郵便種別を変更したことにより、郵便料の削減を図ることができた。また、課税資料イメージ管理システムの更改により当初課税事務においても混乱することなく進めることができた。

5. 今後の方針

事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> 1 現状で継続 <input type="radio"/> 2 拡大して継続 <input type="radio"/> 3 縮小して継続 <input type="radio"/> 4 他事業と統合 <input type="radio"/> 5 休止 <input type="radio"/> 6 その他見直し <input type="radio"/> 令和3年度で終了 <input type="radio"/> 令和2年度で終了 <input type="radio"/> 令和元年度で終了
	<p><判断理由></p> <p>今後も人口増加及び就業形態の多様化に伴う課税資料の増加や、税制改正が続くものと予想される。それらに対応するための税基幹システム等の改修を当初課税業務と並行して行う必要がある。特別徴収の徹底による、課税後の納付方法切替申請などの特別徴収事務の増加は一定程度落ち着いてきたが、人口増による課税資料の増加は今後も見込まれるところである。引き続き、電子化の推進やシステム対応により、適正な課税事務に努める必要がある。</p>
今後の取組方針	<p>当初課税期は限られた期間に実施する必要があるため、増加する事務に対応するには、より効率的に事務を進めるとともに、人員増等も含めた課の組織体制の整備が求められる。</p> <p>令和3年度市県民税は、働き方改革による給与所得控除から基礎控除への振替、寡婦控除の見直しなど、大幅な税制改正が実施される。このため、課税資料の様式改正も予定されていることから、税基幹システム等の改修を当初課税業務に影響を及ぼすことの無いよう滞りなく行うことが重要である。</p>

事務事業名	35384 法人市民税賦課費														
担当組織	財務部					税務課					担当	諸税・法人担当			
組織コード	R2	08	06	00	会計・款・項・目・大事業・中事業	R2	01	02	02	02	01	02	記入日	令和 2年 6月17日	
	R1	08	06	00		R1	01	02	02	02	01	02			

1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ													実施計画候補	
基本目標	08	着実な総合振興計画の実行に向けて										○ 対象 ● 対象外		
分野	03	効率的な行政運営												
施策	86	財源の確保												
事業期間	平成25年度～令和2年度													
根拠法令 通達等	地方税法、法人税法他					関連計画 施政方針								
事業区分	○ 法定受託事務 ● 自治事務のうち義務的なもの ○ 自治事務のうち任意のもの													
対象	市内事務所等設置法人													
事業目的	法人市民税収入の確保のため、申告書のほか課税資料の受付・収集を図り、適正な課税を実施する。													
事業内容	申告受付の実施、法人に関する異動届等受付により、課税資料の受付・収集を図り、適正な課税を実施する。													
実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市による単独直営 <input type="checkbox"/> 委託 (<input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 市民・NPO) <input type="checkbox"/> 協働・協力 ()													

2. 実施結果

		令和元年度 執行額 (千円)	令和2年度 予算額 (千円)	令和3年度 計画額 (千円)	令和4年度 計画額 (千円)	令和5年度 計画額 (千円)	
事業の 予算・実績	事業内容	市内に事務所等所有法人による申告納付					
	事業費	993	1,241	1,142	1,241	1,241	
	財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0
		県支出金	0	0	0	0	0
		起債	0	0	0	0	0
		その他	0	0	0	0	0
		一般財源	993	1,241	1,142	1,241	1,241
	人件費	10,272	10,272	10,272	10,272	10,272	
	投入 人員	常勤職員	1.5人	1.5人	1.5人	1.5人	1.5人
		非常勤職員	0人	0人	0人	0人	0人
事業費+人件費		11,265	11,513	11,414	11,513	11,513	

目標達成状況	指標名		単位	説明・算定式	H30目標 H30実績	R1目標 R1実績	R2目標 R2実績
	活動①	未申告法人調査			件		30
活動②					30	57	—
成果①	法人市民税予算調定額達成率		%	最終調定額÷最終予算調定額	100	100	100
成果②					99.7	100.2	—

目標達成状況の分析	A：活動・成果ともに達成した。 <判断理由> 未申告法人調査については、申告書が返戻された法人等について、過去の事業年度分も含め対象者を選定したことで、目標値を達成することができた。 予算調定額達成率は、最大手法人の増収の影響もあり、目標を達成することができた。						
-----------	--	--	--	--	--	--	--

3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	29年度	30年度	1年度	A：施策の目標達成に大いに貢献している。
	A	A	A	<判断理由> 限られた職員で多額の税収を確保していることは、財源確保に大いに貢献しているものとする。
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	29年度	30年度	1年度	A：経費の精査が十分になされている。
	A	A	A	<判断理由> 十分に精査されている。最小の人員及び事業費で、多額の税収を確保している。
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	29年度	30年度	1年度	A：事業手法は工夫され、非常に効率的・効果的である。
	A	A	A	<判断理由> 税基幹システムに習熟し、関係法令の研究を行い、近隣市・県税事務所と連携を図るなど、効率的に実施されている。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	29年度	30年度	1年度	A：受益・負担は十分な検討、見直しを実施している。
	A	A	A	<判断理由> 法令に則り課税しているため、適正である。

4. 令和元年度中に実施した見直し内容

見直し内容	特段の見直し事項はない。
見直しの効果	

5. 今後の方針

事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> 1 現状で継続 <input type="radio"/> 2 拡大して継続 <input type="radio"/> 3 縮小して継続 <input type="radio"/> 4 他事業と統合 <input type="radio"/> 5 休止 <input type="radio"/> 6 その他見直し <input type="radio"/> 令和3年度で終了 <input type="radio"/> 令和2年度で終了 <input type="radio"/> 令和元年度で終了
	<判断理由> 各法人が適正に申告し、適正な事務執行を行うことで、税収の確保が実現されている。今後も、適正な課税に努めていく。
今後の取組方針	令和元年10月1日以降に開始する事業年度から、法人税割額の税率が一律に引き下げられたことから、今後も、現状の税収確保を確実なものとし、更なる財源確保のため適正な事務を実施する。また、税制改正の内容を十分に把握し、国の法人税率に関する動向も注視しながら、税収の影響について早期に見込みを立てていく。さらに、未申告法人の把握に努め、適正な課税に導くための調査を実施する。

3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	29年度	30年度	1年度	A：施策の目標達成に大いに貢献している。
	A	A	A	<判断理由> 固定資産税・都市計画税は、景気変動に左右されにくく、市税の中で安定した財源の一つであり、市財政に大きく貢献している。
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	29年度	30年度	1年度	B：経費は適正な範囲である。
	A	A	B	<判断理由> 限られた人員で土地・家屋・償却資産とも創意工夫を凝らして最小限の費用（予算）で最大の効果（調定増）が得られるよう努力している。今後、現在の賦課水準を保つためにも、人材育成による職員のスキルアップと人員確保が必要である。
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	29年度	30年度	1年度	A：事業手法は工夫され、非常に効率的・効果的である。
	A	A	A	<判断理由> 固定資産税等の賦課業務は、高い専門性が要求される業務であり、限られた人員で市民に信頼され公平・適正な賦課課税の実現に向けて新システム導入や業務委託を積極的に行い、効率的な事務を実施している。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	29年度	30年度	1年度	A：受益・負担は十分な検討、見直しを実施している。
	A	A	A	<判断理由> 課税客体の的確な把握に努め、地方税法・市税条例等に則り、公平・適正な賦課課税を実施している。

4. 令和元年度中に実施した見直し内容

見直し内容	償却資産は納税義務者からの申告をもとに賦課する唯一の固定資産税であるため、公平・適正な課税ため例年未申告事業者への申告催告や未申告実地調査を実施していたが、令和元年度から既申告事業者へ申告漏れ等を正すための書面調査や実地調査を実施して強化した。
見直しの効果	未申告調査に加え書面調査・実地調査も併用して実施することで、修正申告額で500万円を超える税収増となった。

5. 今後の方針

事業の方向性	<input type="radio"/> 1 現状で継続 <input checked="" type="radio"/> 2 拡大して継続 <input type="radio"/> 3 縮小して継続 <input type="radio"/> 4 他事業と統合 <input type="radio"/> 5 休止 <input type="radio"/> 6 その他見直し <input type="radio"/> 令和3年度で終了 <input type="radio"/> 令和2年度で終了 <input type="radio"/> 令和元年度で終了
	<判断理由> 固定資産税は安定した財源となっていることから、今後も法令に基づき、公平かつ適正な課税事務を実施していく。 また、適正な賦課を行うためには、資源を投入して更に精度の高い調査・賦課事務を実施する必要がある。
今後の取組方針	将来構想として、より公平で適正な課税事務を目指して、公図の電子化、土地家屋の現況調査図の電子化やGISシステムによる土地評価事務の効率化等の資源を投入する必要がある。 また、近年、本市の宅地化が急速に進む中、資産税賦課事務の担い手である職員のスキルの継承が重要であり、適正な業務水準の維持向上のためにも、人材育成を図り、優秀な人材と人員の確保が急務である。

事務事業名	7017 軽自動車税賦課費													
担当組織	財務部					税務課					担当	諸税・法人担当		
組織コード	R2	08	06	00	会計・款・項・目・大事業・中事業	R2	01	02	02	02	03	01	記入日	令和 2年 6月17日
	R1	08	06	00		R1	01	02	02	02	03	01		

1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ													実施計画候補
基本目標	08	着実な総合振興計画の実行に向けて										○ 対象 ● 対象外	
分野	03	効率的な行政運営											
施策	86	財源の確保											
事業期間	平成25年度～令和2年度												
根拠法令 通達等	地方税法・道路運送車両法等					関連計画 施政方針	適正な課税の推進						
事業区分	○ 法定受託事務 ● 自治事務のうち義務的なもの ○ 自治事務のうち任意のもの												
対象	納税義務者及び軽自動車等の販売店												
事業目的	市税の一つである軽自動車税収入の確保に向けて、適正な課税を実施する。												
事業内容	納税義務者へ現状と異なった納税通知書の送付の防止、登録・廃車に関する納税義務者からの通知漏れの対応等を図り、適正な課税を実施する。												
実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市による単独直営 <input type="checkbox"/> 委託 (<input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 市民・NPO) <input type="checkbox"/> 協働・協力 ()												

2. 実施結果

事業の 予算・実績	事業内容		令和元年度 執行額(千円)	令和2年度 予算額(千円)	令和3年度 計画額(千円)	令和4年度 計画額(千円)	令和5年度 計画額(千円)	
	事業費		2,921	3,338	3,122	3,338	3,338	
	財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		起債	0	0	0	0	0	
		その他	12	13	13	13	13	
		一般財源	2,909	3,325	3,109	3,325	3,325	
	人件費		6,848	6,848	6,848	6,848	6,848	
	投入 人員	常勤職員	1人	1人	1人	1人	1人	
		非常勤職員	1人	1人	1人	1人	1人	
事業費+人件費		9,769	10,186	9,970	10,186	10,186		
目標達成 状況	指標名		単位	説明・算定式		H30目標 H30実績	R1目標 R1実績	R2目標 R2実績
	活動①	軽自動車登録台数	台	軽自動車課税台数	19,800	19,900	20,000	
					20,203	20,280	—	
	成果①	軽自動車税予算調定額達成率	%	最終調定額÷最終予算調定額	100	100	100	
					99.4	99.7	—	
	成果②							
目標達成 状況 の分析	B：活動・成果のいずれかを達成した。 <判断理由> 登録台数については、原付一種(50cc以下)は減少傾向にあるが、軽四輪乗用車及び小型二輪車は増加している。全体の登録台数は、今後も横這い、もしくは微増していくことが見込まれる。 予算調定額達成率については、予算調定額を若干下回ったが、ほぼ予算見込みどおりの結果とすることができた。							

3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	29年度	30年度	1年度	A：施策の目標達成に大いに貢献している。
	A	A	A	<判断理由> 地方税法及び市税条例に従い、申告に不備のある納税義務者に対し、軽自動車税事務協議会等への照会、住所異動者に対する通知により、課税権限を確認し、納税義務者の捕捉を行っている。
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	29年度	30年度	1年度	A：経費の精査が十分になされている。
	A	A	A	<判断理由> 課税標識の追加作製に際し、在庫状況を意識し、費用圧縮に努めている。補充作製に際しては、作製単価を考慮し、可能な限り発注量をまとめ単価上昇に配慮している。
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	29年度	30年度	1年度	A：事業手法は工夫され、非常に効率的・効果的である。
	A	A	A	<判断理由> 所有者の申告による課税のため、現状は申告済納税義務者の異動に注目し、異動及び廃車申告等を勧めている。盗難や未申告の所有権移転による課税客体不存在所有者に対しては、申立てにより課税確認を実施し、公正な課税に努めている。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	29年度	30年度	1年度	A：受益・負担は十分な検討、見直しを実施している。
	A	A	A	<判断理由> 法令に基づく課税であり、適正な負担である。

4. 令和元年度中に実施した見直し内容

見直し内容	特段の見直し事項はない。
見直しの効果	

5. 今後の方針

事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> 1 現状で継続 <input type="radio"/> 2 拡大して継続 <input type="radio"/> 3 縮小して継続 <input type="radio"/> 4 他事業と統合 <input type="radio"/> 5 休止 <input type="radio"/> 6 その他見直し <input type="radio"/> 令和3年度で終了 <input type="radio"/> 令和2年度で終了 <input type="radio"/> 令和元年度で終了
	<判断理由> 課税客体の正確な把握に努め、今後も適正な賦課事務に努めていく。
今後の取組方針	軽自動車税の公平性及び信頼の確保のため、納税義務者への対応等が一律となるよう、課税客体と所有者の確認、法令に従った取り扱いを徹底する。また、令和元年10月1日から導入された「軽自動車税環境性能割」について、賦課徴収を行う県との連携を密にし、適切に歳入及び歳出の事務処理を遂行していく必要がある。

事務事業名	21147 市たばこ税賦課費													
担当組織	財務部					税務課					担当	諸税・法人担当		
組織コード	R2	08	06	00	会計・款・項・目・大事業・中事業	R2	01	02	02	02	04	01	記入日	令和 2年 6月17日
	R1	08	06	00		R1	01	02	02	02	04	01		

1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ													実施計画候補
基本目標	08	着実な総合振興計画の実行に向けて										○ 対象 ● 対象外	
分野	03	効率的な行政運営											
施策	86	財源の確保											
事業期間	平成25年度～令和2年度												
根拠法令 通達等	地方税法、市税条例					関連計画 施政方針							
事業区分	○ 法定受託事務 ● 自治事務のうち義務的なもの ○ 自治事務のうち任意のもの												
対象													
事業目的	市たばこ税の確保のため、提出された市たばこ税申告書の処理を行い、適正な課税を行う。												
事業内容	市たばこ税の確保のため、提出された市たばこ税申告書の処理を行い、適正な課税を行う。 また、市たばこ税の安定した税収を確保するため、環境美化の促進、喫煙マナーの啓発を行うことで、たばこに対する理解向上を図る。												
実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市による単独直営 <input type="checkbox"/> 委託 (<input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 市民・NPO) <input type="checkbox"/> 協働・協力 ()												

2. 実施結果

事業内容	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	執行額(千円)	予算額(千円)	計画額(千円)	計画額(千円)	計画額(千円)
市たばこ税賦課及び啓発					
事業費	34	89	93	89	89
財源内訳					
国庫支出金	0	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0
起債	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0
一般財源	34	89	93	89	89
人件費	3,424	3,424	3,424	3,424	3,424
投入人員					
常勤職員	0.5人	0.5人	0.5人	0.5人	0.5人
非常勤職員	0人	0人	0人	0人	0人
事業費+人件費	3,458	3,513	3,517	3,513	3,513

目標達成状況	指標名	単位	説明・算定式	H30目標 H30実績	R1目標 R1実績	R2目標 R2実績
	活動①	啓発活動の実施	回	啓発活動の実施	2	2
活動②				2	2	-
成果①	適正賦課(税率改正時)	%	手持品課税の周知及び申告本数・納付税額の確認	100	100	100
成果②				100	100	-

目標達成状況の分析	A：活動・成果ともに達成した。 <判断理由> 喫煙による環境及び健康への影響に配慮し、環境美化の促進、喫煙マナーの啓発等を実施することにより、市たばこ税に対する理解の向上を図ることができた。また、たばこ税の税率改正時における手持品課税について、市内小売業者等に周知をし、適正に賦課することができた。
-----------	---

3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	29年度	30年度	1年度	A：施策の目標達成に大いに貢献している。
	A	A	A	<判断理由> 約10億円の税収を確保しており、財源確保に大いに貢献しているものとする。併せて、環境美化及び喫煙マナー向上に寄与している。
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	29年度	30年度	1年度	A：経費の精査が十分になされている。
	A	A	A	<判断理由> 最小の人員投入及び事業費で多額の税収確保を実現している。
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	29年度	30年度	1年度	A：事業手法は工夫され、非常に効率的・効果的である。
	A	A	A	<判断理由> 現状の手法以外での実施は困難と考える。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	29年度	30年度	1年度	A：受益・負担は十分な検討、見直しを実施している。
	A	A	A	<判断理由> 法令に則った課税であり、適正である。

4. 令和元年度中に実施した見直し内容

見直し内容	特段の見直し事項はない。
見直しの効果	

5. 今後の方針

事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> 1 現状で継続 <input type="radio"/> 2 拡大して継続 <input type="radio"/> 3 縮小して継続 <input type="radio"/> 4 他事業と統合 <input type="radio"/> 5 休止 <input type="radio"/> 6 その他見直し <input type="radio"/> 令和3年度で終了 <input type="radio"/> 令和2年度で終了 <input type="radio"/> 令和元年度で終了
	<判断理由> 昨今のたばこ消費環境が悪化している中で、今後も市たばこ税に関する理解を得るため、環境美化、喫煙マナーに関する啓発等を実施し、適正な賦課事務に努めていく。
今後の取組方針	今後も税収確保のため当該事業を継続していく。 また、喫煙者の減少傾向が続く中、平成30年度税制改正により、今後、たばこ税率の引上げ及び加熱式たばこの課税方式の見直しが段階的に実施されていくことから、税制改正の内容把握を行い、可能な限り税収予測に努めるとともに、手持品課税事務の準備も進め、適切に対応していく。

事務事業名	7529 市税徴収管理事業													
担当組織	財務部					収納推進課					担当	管理担当		
組織コード	R2	08	08	00	会計・款・項・目・大事業・中事業	R2	01	02	02	02	05	01	記入日	令和 2年 6月19日
	R1	08	08	00		R1	01	02	02	02	05	01		

1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ													実施計画候補
基本目標	08	着実な総合振興計画の実行に向けて										● 対象 ○ 対象外	
分野	03	効率的な行政運営											
施策	86	財源の確保											
事業期間	平成17年度～令和2年度												
根拠法令 通達等	地方税法					関連計画 施政方針							
事業区分	○ 法定受託事務 ● 自治事務のうち義務的なもの ○ 自治事務のうち任意のもの												
対象	納税義務者（個人、法人）												
事業目的	納税された市税の収納状況を正確に把握し適正な収納管理を行う。												
事業内容	市税の収納、振替、還付、充当等、市税収納に関する事務を実施する。												
実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市による単独直営 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 (<input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 市民・NPO) <input type="checkbox"/> 協働・協力 ()												

2. 実施結果

事業内容	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度		
	執行額(千円)	予算額(千円)	計画額(千円)	計画額(千円)	計画額(千円)		
事業内容	市税の収納に係る事業	市税の収納に係る事業	市税の収納に係る事業	市税の収納に係る事業	市税の収納に係る事業		
事業費	142,718	192,203	184,067	192,203	192,203		
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0		
	県支出金	15,558	16,651	16,651	16,651		
	起債	0	0	0	0		
	その他	733	808	808	808		
	一般財源	126,427	174,744	166,608	174,744	174,744	
人件費	34,240	34,240	34,240	34,240	34,240		
投入人員	常勤職員	5人	5人	5人	5人		
	非常勤職員	2.5人	2.5人	2.5人	2.5人		
事業費+人件費	176,958	226,443	218,307	226,443	226,443		
目標達成状況	指標名	単位	説明・算定式	H30目標 H30実績	R1目標 R1実績	R2目標 R2実績	
	活動①	納税コールセンターリスト着手件数	件		36,000 41,512	36,000 43,415	36,000 -
	活動②	市税口座振替新規申込件数	件		1,900 1,804	1,900 1,732	1,900 -
	成果①	納税コールセンター納付約束件数	件		5,000 4,772	5,000 4,697	5,000 -
	成果②	市税口座振替件数	件		70,000 76,971	70,000 77,709	70,000 -
	目標達成状況の分析	B：活動・成果のいずれかを達成した。 <判断理由> 市税徴収管理業務は、様々な納付方法により収納される市税を適正に管理するとともに、未納者に対して納税コールセンターを活用した電話催告を行っている。着手件数も目標を達成しており、収納率向上に資するものとなっている。					

3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	29年度	30年度	1年度	A：施策の目標達成に大いに貢献している。
	A	A	A	<判断理由> 収納事務を適正かつ速やかに実施することにより、市の財源確保に貢献している。
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	29年度	30年度	1年度	A：経費の精査が十分になされている。
	A	A	A	<判断理由> 多様な納税手段を提供するに当たり、業務委託とすることで効率化を進め、経費の適正化を図っている。
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	29年度	30年度	1年度	A：事業手法は工夫され、非常に効率的・効果的である。
	A	A	A	<判断理由> 口座振替をはじめ、コンビニ納付、ペイジー納付、クレジットカード納付、PayB納付など、多様な納税手段を提供して納付環境の整備を進めているほか、納税コールセンターによる電話催告を実施し、自主納付を促している。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	29年度	30年度	1年度	A：受益・負担は十分な検討、見直しを実施している。
	A	A	A	<判断理由> クレジットカード納付については、1万円を超える納付額の場合、決済手数料の一部を自己負担とするなど、利便性の恩恵を受ける納税者に負担を求めて適正化を図っている。

4. 令和元年度中に実施した見直し内容

見直し内容	督促状や催告書に記載される説明文章をより分かりやすく工夫したり、現年催告書送付者に対して、納税コールセンターと連携した送付文書の開封確認を実施した。
見直しの効果	督促状や催告書を送付しても自主納付に結びつかない滞納者に対し納税を促す効果があった。

5. 今後の方針

事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> 1 現状で継続 <input type="radio"/> 2 拡大して継続 <input type="radio"/> 3 縮小して継続 <input type="radio"/> 4 他事業と統合 <input type="radio"/> 5 休止 <input type="radio"/> 6 その他見直し <input type="radio"/> 令和3年度で終了 <input type="radio"/> 令和2年度で終了 <input type="radio"/> 令和元年度で終了
	<判断理由> 徴収管理事務は正確な日次管理が必要とされる業務であることから、適正かつ迅速な事務処理を実施するとともに、納付手段の拡充など利便性の向上に向けて取り組みを進める。
今後の取組方針	納付しやすい環境の整備を推進するとともに、迅速で正確な収納事務を推進していく。

事務事業名	7445 市税等滞納調査・相談事業													
担当組織	財務部					収納推進課					担当	債権管理担当		
組織コード	R2	08	08	00	会計・款・項・目・大事業・中事業	R2	01	02	02	02	05	02	記入日	令和 2年 6月19日
	R1	08	08	00		R1	01	02	02	02	05	02		

1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ													実施計画候補	
基本目標	08	着実な総合振興計画の実行に向けて										○ 対象		
分野	03	効率的な行政運営										● 対象外		
施策	86	財源の確保												
事業期間	平成14年度～令和2年度													
根拠法令 通達等	地方税法・国税徴収法 地方自治法、民法					関連計画 施政方針								
事業区分	○ 法定受託事務 ● 自治事務のうち義務的なもの ○ 自治事務のうち任意のもの													
対象	徴収担当職員、市民(滞納者)													
事業目的	市税の収入を早期に確保する。 税外債権の適正管理を支援する。													
事業内容	滞納者に対して、①法令に基づく督促状の発送、②納税催告書の発送、③差押や換価及び配当、④窓口・電話での納税相談を実施する。 債権管理適正化推進委員会の事務局として、税外債権の適正管理の支援に係る取組みを実施する。													
実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市による単独直営 <input type="checkbox"/> 委託 (<input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 市民・NPO) <input type="checkbox"/> 協働・協力 ()													

2. 実施結果

事業の 予算・実績	事業内容		令和元年度 執行額(千円)	令和2年度 予算額(千円)	令和3年度 計画額(千円)	令和4年度 計画額(千円)	令和5年度 計画額(千円)	
	事業費		20,952	22,825	59,856	22,825	22,825	
	財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		起債	0	0	0	0	0	
		その他	57	51	51	51	51	
	一般財源		20,895	22,774	59,805	22,774	22,774	
	人件費		27,392	27,392	27,392	27,392	27,392	
	投入 人員	常勤職員	4人	4人	4人	4人	4人	
		非常勤職員	8人	8人	8人	8人	8人	
事業費+人件費		48,344	50,217	87,248	50,217	50,217		
目標達成 状況	指標名		単位	説明・算定式		H30目標 H30実績	R1目標 R1実績	R2目標 R2実績
	活動	① 催告文書(督促状・納税催告書)の発送件数(現滞計)	件	実際に発送した件数(督促状+納税催告書)		73,000	73,000	73,000
		② 債権未回収回収強化期間に係る取組件数	件	強化期間中の催告件数(電話、文書、臨宅)		600	830	450
	成果	① 市税収納率(現年分+滞納繰越分)	%	年間の収入済額/調定額		98	98	98
		② 債権未回収回収強化期間に係る納付金額	千円	強化期間の取組による納付金額		97.1	97.4	-
						6,000	7,900	3,600
					7,236	7,308	-	
目標達成状況の分析		A: 活動・成果ともに達成した。 <判断理由> 納期が過ぎている滞納者に対して、納付につながる機会を積極的に増やすため、税目や回数、内容などを検討し、目標を超える催告文書を送付した結果、前年度を上回る収納率となった。						

3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	29年度	30年度	1年度	A：施策の目標達成に大いに貢献している。
	A	A	A	<判断理由> 収納事務を適正かつ速やかに実施することにより、市の財源確保に貢献している。
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	29年度	30年度	1年度	A：経費の精査が十分になされている。
	A	A	A	<判断理由> 納税手段の提供にあたって、業務委託とすることで効率化を進め、経費の適正化を図っている。
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	29年度	30年度	1年度	A：事業手法は工夫され、非常に効率的・効果的である。
	A	B	A	<判断理由> 多様な納税手段を提供して、納付環境の充実化を図っている。また、納税コールセンターによる電話催告を実施し、自主納付を促している。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	29年度	30年度	1年度	A：受益・負担は十分な検討、見直しを実施している。
	B	A	A	<判断理由> クレジットカード納付については、1万円を超える納付の場合、決済手数料の一部を自己負担とするなど、利便性の恩恵を受ける納税者に負担を求めて適正化を図っている。

4. 令和元年度中に実施した見直し内容

見直し内容	令和元年度については、勤務先に給与調査を実施する前に滞納者本人宛に調査予告書を522件送付し、自主納付を促す取組を実施した。また、当該予告書に反応しない滞納者401人に対して、勤務先に給与調査を実施した。
見直しの効果	勤務先への給与調査実施にあたり、事前に調査予告書を本人に送付することで、納税相談や自主納付につながる案件が増えたほか、実際に勤務先に給与調査を実施したことに対するクレームがほぼ無くなった。

5. 今後の方針

事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> 1 現状で継続 <input type="radio"/> 2 拡大して継続 <input type="radio"/> 3 縮小して継続 <input type="radio"/> 4 他事業と統合 <input type="radio"/> 5 休止 <input type="radio"/> 6 その他見直し <input type="radio"/> 令和3年度で終了 <input type="radio"/> 令和2年度で終了 <input type="radio"/> 令和元年度で終了
	<判断理由> 滞納者に対して催告や納税相談等を行い納付を促し、財源を確保することが本事業の目的である。本事業を適正かつ迅速に実施することにより、多くの納期内納付及び収納率向上につながる。
今後の取組方針	催告文書送付をはじめとした様々な業務に対して、今後も効率的・効果的な方法を検討、推進していく。債権未回収回収強化期間に係る取組については、今年度、コロナウイルス感染症の影響により、例年実施している2回から1回に減らして取り組むこととしていることから、目標値を1回分として掲げている。

事務事業名	7568 市税滞納処分事業													
担当組織	財務部					収納推進課					担当	収納担当		
組織コード	R2	08	08	00	会計・款・項・目・大事業・中事業	R2	01	02	02	02	05	03	記入日	令和 2年 6月19日
	R1	08	08	00		R1	01	02	02	02	05	03		

1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ											実施計画候補				
基本目標	08	着実な総合振興計画の実行に向けて									○ 対象 ● 対象外				
分野	03	効率的な行政運営													
施策	86	財源の確保													
事業期間	平成14年度～令和2年度														
根拠法令 通達等	①法令：地方税法・国税徴収法等の税法、民法・不動産登記法等の民事法、民事執行法・破産法等の民事手続法、行政不服審査法等の行政法、及びこれらの政令・省令等 ②通達：国税徴収法基本通達等					関連計画 施政方針			財源確保は、30年度所信表明においても行政運営分野の重要項目のひとつとなっている。						
事業区分	○ 法定受託事務 ● 自治事務のうち義務的なもの ○ 自治事務のうち任意のもの														
対象	市税滞納者のうち、自主納付による早期完納が見込まれないもの														
事業目的	市税滞納者に対し、財産調査（任意調査・強制調査）及び滞納処分（差押え・換価・配当）を執行することにより、税収を確保するとともに、収入未済額の圧縮を図る。														
事業内容	滞納処分を執行するために財産調査を行い、調査結果をもとに滞納処分の差押え、換価（公売・取立て）及び配当による強制徴収を実施する。														
実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市による単独直営 <input type="checkbox"/> 委託 (<input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 市民・NPO) <input type="checkbox"/> 協働・協力 ()														

2. 実施結果

事業の 予算・実績	事業内容		令和元年度 執行額（千円）	令和2年度 予算額（千円）	令和3年度 計画額（千円）	令和4年度 計画額（千円）	令和5年度 計画額（千円）	
	滞納処分による強制徴収							
	事業費		212	11,100	8,040	11,100	11,100	
	財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		起債	0	0	0	0	0	
		その他	0	10,657	10,657	10,657	10,657	
		一般財源	212	443	-2,617	443	443	
	人件費		54,784	54,784	54,784	54,784	54,784	
	投入 人員	常勤職員	8人	8人	8人	8人	8人	
非常勤職員		0人	0人	0人	0人	0人		
事業費+人件費		54,996	65,884	62,824	65,884	65,884		
目標達成 状況	指標名		単位	説明・算定式		H30目標 H30実績	R1目標 R1実績	R2目標 R2実績
	活動	① 滞納処分としての差押（不動産・債権）件数	件	年間に差押をした件数（職員経験年数による）		520	520	520
		② 公売予告通知書新規発送件数	件	年間予定件数		607	518	—
	成果	① 市税収納率（現年分+滞納繰越分）	%	年間の収入済額/調定額		8	4	4
		② 公売件数（自主納付、任意売却等含む）	件	公売及び完納への目途が立った件数		4	5	—
						98	98	98
					97.1	97.4	—	
					8	4	4	
					3	5	—	
目標達成状況の分析		B：活動・成果のいずれかを達成した。 <判断理由> 給与の差押を中心に積極的に滞納整理を進めた結果、前年度の収納率を上回ることができた。公売については、公売予告通知を送った案件を全て自主納付又は任意売却に結び付け目標を達成することができた。						

3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	29年度	30年度	1年度	A：施策の目標達成に大いに貢献している。
	A	A	A	<判断理由> 当該事業は、納税の公平性と財源確保が目的となっていることから、施策の目標達成に直結するものとなっている。
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	29年度	30年度	1年度	A：経費の精査が十分になされている。
	A	A	A	<判断理由> 滞納管理システム等を活用し、限られた経費（人員等含む）で大きな効果（収納率等）を生み出している。
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	29年度	30年度	1年度	A：事業手法は工夫され、非常に効率的・効果的である。
	A	A	A	<判断理由> 法令に従って迅速に処分を行っている。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	29年度	30年度	1年度	A：受益・負担は十分な検討、見直しを実施している。
	A	A	A	<判断理由> 公平かつ公正な徴収を実現するため、納税資力がありながら納付をしない滞納者に対して、厳正かつ効果的な滞納処分を行っている。

4. 令和元年度中に実施した見直し内容

見直し内容	令和元年度については、平成30年度に引き続き、給与差押を積極的に推進した。また、困難事案に対して捜索を実施した。
見直しの効果	当該年度中に実施した新規の給与差押は120件と前年度を上回ったことから、今後の継続的な収納率向上に資するものとなった。その効果を踏まえて、引き続きより早い時期からの給与差押に取り組むこととした。また、捜索を行うことで整理を進めるとともに、職員のスキルアップを図った。

5. 今後の方針

事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> 1 現状で継続 <input type="radio"/> 2 拡大して継続 <input type="radio"/> 3 縮小して継続 <input type="radio"/> 4 他事業と統合 <input type="radio"/> 5 休止 <input type="radio"/> 6 その他見直し <input type="radio"/> 令和3年度で終了 <input type="radio"/> 令和2年度で終了 <input type="radio"/> 令和元年度で終了
	<判断理由> 滞納処分による強制徴収は、財源確保のみならず税負担の公平性担保のため不可欠なものである。今後も継続的に適正かつ効果的な滞納整理への取組を進める。
今後の取組方針	各徴税吏員の専門知識の蓄積や継承を図り、高い水準の滞納整理事務を継続できるよう努めていく。

事務事業名	21024 徴収費													
担当組織	財務部				収納推進課					担当		管理担当		
組織コード	R2	08	08	00	会計・款・項・目・大事業・中事業	R2	02	01	02	01	02	01	記入日	令和 2年 6月19日
	R1	08	08	00		R1	02	01	02	01	02	01		

1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ													実施計画候補	
基本目標	08	着実な総合振興計画の実行に向けて										○ 対象		
分野	03	効率的な行政運営										● 対象外		
施策	86	財源の確保												
事業期間	平成17年度～令和2年度													
根拠法令 通達等	地方税法 国民健康保険法 戸田市国民健康保険税条例					関連計画 施政方針								
事業区分	○ 法定受託事務 ● 自治事務のうち義務的なもの ○ 自治事務のうち任意のもの													
対象	国民健康保険の納税義務者である世帯主													
事業目的	国民健康保険事業を運営するために必要な費用をまかなうため、国民健康保険税を徴収する。													
事業内容	電算システムなどを通して国民健康保険税をより効率的に徴収する。													
実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市による単独直営 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 (<input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 市民・NPO) <input type="checkbox"/> 協働・協力 ()													

2. 実施結果

事業の 予算・実績	事業内容		令和元年度 執行額(千円)	令和2年度 予算額(千円)	令和3年度 計画額(千円)	令和4年度 計画額(千円)	令和5年度 計画額(千円)	
	事業費		18,138	20,140	19,353	20,140	20,140	
	財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	3,238	3,238	3,238	3,238	
		起債	0	0	0	0	0	
		その他	0	0	0	0	0	
	一般財源		18,138	16,902	16,115	16,902	16,902	
	人件費		0	0	0	0	0	
	投入 人員	常勤職員	0人	0人	0人	0人	0人	
		非常勤職員	0人	0人	0人	0人	0人	
事業費+人件費		18,138	20,140	19,353	20,140	20,140		
目標達成 状況	指標名		単位	説明・算定式		H30目標 H30実績	R1目標 R1実績	R2目標 R2実績
	活動①	国民健康保険税の口座振替申込件数	件			600 819	600 746	600 -
	活動②							-
	成果①	国民健康保険税口座振替件数	件			30,000 31,464	30,000 30,544	30,000 -
	成果②							-
目標達成 状況 の分析	A：活動・成果ともに達成した。 <判断理由> 口座振替に係る活動指標、成果指標はともに目標を達成することができた。また、徴収業務は、様々な納付方法により収納される国保税を適正に管理するとともに、未納者に対して納税コールセンターを活用した電話催告を行っており、特に現年課税分の収納率向上に資するものとなっている。							

3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	29年度	30年度	1年度	A：施策の目標達成に大いに貢献している。
	A	A	A	<判断理由> 収納事務を正確かつ確実に実施することにより、市の財源確保に貢献している。
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	29年度	30年度	1年度	A：経費の精査が十分になされている。
	A	A	A	<判断理由> 多様な納税手段を提供するに当たり、一部業務委託とすることで経費の適正化を図っている。
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	29年度	30年度	1年度	A：事業手法は工夫され、非常に効率的・効果的である。
	A	A	A	<判断理由> 口座振替をはじめ、コンビニ納付、ペイジー納付、クレジットカード納付、PayB納付など、多様な納税手段を提供して納付環境の整備を進めているほか、納税コールセンターによる電話催告を実施し、自主納付を促している。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	29年度	30年度	1年度	A：受益・負担は十分な検討、見直しを実施している。
	A	A	A	<判断理由> クレジットカード納付については、1万円を超える納付額の場合、決済手数料の一部を自己負担とするなど、利便性の恩恵を受ける納税者に負担を求めて適正化を図っている。

4. 令和元年度中に実施した見直し内容

見直し内容	国民健康保険税の納期内納付を促進するため、令和2年1月より、スマートフォンアプリ決済「PayB」を導入した。
見直しの効果	利用実績については今後注視していく必要があるが、新型コロナウイルスの影響を受けない、在宅で支払い可能な納付手段を拡充することができた。

5. 今後の方針

事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> 1 現状で継続 <input type="radio"/> 2 拡大して継続 <input type="radio"/> 3 縮小して継続 <input type="radio"/> 4 他事業と統合 <input type="radio"/> 5 休止 <input type="radio"/> 6 その他見直し <input type="radio"/> 令和3年度で終了 <input type="radio"/> 令和2年度で終了 <input type="radio"/> 令和元年度で終了
	<判断理由> 収納管理事務は正確な日次管理が必要とされる業務であることから、適正かつ迅速な事務処理を継続する。
今後の取組方針	納付しやすい環境の整備を推進するとともに、迅速で正確な収納事務を推進していく。

事務事業名	21325 一般被保険者保険税還付金													
担当組織	財務部					収納推進課					担当	管理担当		
組織コード	R2	08	08	00	会計・款・項・目・大事業・中事業	R2	02	08	01	01	01	01	記入日	令和 2年 6月19日
	R1	08	08	00		R1	02	08	01	01	01	01		

1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ													実施計画候補
基本目標	08	着実な総合振興計画の実行に向けて										○ 対象 ● 対象外	
分野	03	効率的な行政運営											
施策	86	財源の確保											
事業期間	平成17年度～令和2年度												
根拠法令 通達等	還付(地方税法第17条、17条の4) 充当(地方税法第17条の2第1項)					関連計画 施政方針	税負担の公平と収納率向上						
事業区分	○ 法定受託事務 ● 自治事務のうち義務的なもの ○ 自治事務のうち任意のもの												
対象	国民健康保険税の過誤納者												
事業目的	国民健康保険税等過誤納金の還付及び充当をすることにより、被保険者の税負担を公平にする。												
事業内容	課税誤り、二重納入等による国民健康保険税等の修正を行う。												
実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市による単独直営 <input type="checkbox"/> 委託 (<input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 市民・NPO) <input type="checkbox"/> 協働・協力 ()												

2. 実施結果

事業内容	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
	執行額(千円)	予算額(千円)	計画額(千円)	計画額(千円)	計画額(千円)	
事業内容	一般被保険者 保険税還付事 業	一般被保険者 保険税還付事 業	一般被保険者 保険税還付事 業	一般被保険者 保険税還付事 業	一般被保険者 保険税還付事 業	
事業費	23,807	21,783	24,000	21,783	21,783	
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	
	県支出金	0	0	0	0	
	起債	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	
	一般財源	23,807	21,783	24,000	21,783	21,783
人件費	0	0	0	0	0	
投入人員	常勤職員	0人	0人	0人	0人	
	非常勤職員	0人	0人	0人	0人	
事業費+人件費	23,807	21,783	24,000	21,783	21,783	
目標達成状況	指標名	単位	説明・算定式	H30目標 H30実績	R1目標 R1実績	R2目標 R2実績
	活動①					-
	活動②					-
	成果①					-
	成果②					-
目標達成状況の分析	- : 未設定 <判断理由>					

3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	29年度	30年度	1年度	－：未設定
	－	－	－	<判断理由>
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	29年度	30年度	1年度	－：未設定
	－	－	－	<判断理由>
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	29年度	30年度	1年度	－：未設定
	－	－	－	<判断理由>
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	29年度	30年度	1年度	－：未設定
	－	－	－	<判断理由>

4. 令和元年度中に実施した見直し内容

見直し内容	
見直しの効果	

5. 今後の方針

事業の方向性	<input type="radio"/> 1 現状で継続 <input type="radio"/> 2 拡大して継続 <input type="radio"/> 3 縮小して継続 <input type="radio"/> 4 他事業と統合 <input type="radio"/> 5 休止 <input type="radio"/> 6 その他見直し <input type="radio"/> 令和3年度で終了 <input type="radio"/> 令和2年度で終了 <input type="radio"/> 令和元年度で終了
	<判断理由>
今後の取組方針	

事務事業名	21326 退職被保険者等保険税還付金													
担当組織	財務部					収納推進課					担当	管理担当		
組織コード	R2	08	08	00	会計・款・項・目・大事業・中事業	R2	02	08	01	02	01	01	記入日	令和 2年 6月19日
	R1	08	08	00		R1	02	08	01	02	01	01		

1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ													実施計画候補
基本目標	08	着実な総合振興計画の実行に向けて										○ 対象 ● 対象外	
分野	03	効率的な行政運営											
施策	86	財源の確保											
事業期間	平成17年度～令和2年度												
根拠法令 通達等	還付(地方税法第17条、17条の4) 充当(地方税法第17条の2第1項)					関連計画 施政方針	税負担の公平と収納率向上						
事業区分	○ 法定受託事務 ● 自治事務のうち義務的なもの ○ 自治事務のうち任意のもの												
対象	国民健康保険税の過誤納者												
事業目的	国民健康保険税等過誤納金の還付及び充当をすることにより、被保険者の税負担を公平にする。												
事業内容	課税誤り、二重納入等による国民健康保険税等の修正を行う。 この事業の評価は、過誤納金還付事業の中に含める。												
実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市による単独直営 <input type="checkbox"/> 委託 (<input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 市民・NPO) <input type="checkbox"/> 協働・協力 ()												

2. 実施結果

事業の 予算・実績	事業内容		令和元年度 執行額(千円)	令和2年度 予算額(千円)	令和3年度 計画額(千円)	令和4年度 計画額(千円)	令和5年度 計画額(千円)	
	事業費		167	304	300	304	304	
	財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		起債	0	0	0	0	0	
		その他	0	0	0	0	0	
		一般財源	167	304	300	304	304	
	人件費		0	0	0	0	0	
	投入 人員	常勤職員	0人	0人	0人	0人	0人	
		非常勤職員	0人	0人	0人	0人	0人	
事業費+人件費		167	304	300	304	304		
目標達成 状況	指標名		単位	説明・算定式		H30目標 H30実績	R1目標 R1実績	R2目標 R2実績
	活動①							-
	活動②							-
	成果①							-
	成果②							-
目標達成 状況 の分析	- : 未設定 <判断理由>							

3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	29年度	30年度	1年度	－：未設定
	－	－	－	<判断理由>
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	29年度	30年度	1年度	－：未設定
	－	－	－	<判断理由>
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	29年度	30年度	1年度	－：未設定
	－	－	－	<判断理由>
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	29年度	30年度	1年度	－：未設定
	－	－	－	<判断理由>

4. 令和元年度中に実施した見直し内容

見直し内容	
見直しの効果	

5. 今後の方針

事業の方向性	<input type="radio"/> 1 現状で継続 <input type="radio"/> 2 拡大して継続 <input type="radio"/> 3 縮小して継続 <input type="radio"/> 4 他事業と統合 <input type="radio"/> 5 休止 <input type="radio"/> 6 その他見直し <input type="radio"/> 令和3年度で終了 <input type="radio"/> 令和2年度で終了 <input type="radio"/> 令和元年度で終了
	<判断理由>
今後の取組方針	